

# 巻頭言

比較日本学教育研究センター長

森 山 新

本学大学院に国際日本学専攻ができて10年が過ぎ、その間本学における日本学研究も深化と拡大を続けてきた。毎年7月に行われてきた国際日本学シンポジウムも今年で11回を数え、2006年に始まった国際日本学コンソーシアムも順調に参加大学を拡大しつつ今回で4回目を数える。国内外から日本学研究に関係する先生方をお呼びしての公開講演会は今年度7回開催された。海外の大学とのジョイントゼミは中国（北京日本学研究センター）、台湾（国立台湾大学）、フランス（パリ・ディドロ大学）で行われ、アメリカのヴァッサー大学では教壇実習も行われた。

言うまでもなく「日本学」とは「地域研究」の一つである。「地域研究」とは「その地域の特色を他の地域と比較しながら考察し、当該地域の文化、言語、社会、民俗などについて広く研究する学問分野」である。であるとすれば、日本学が日本（だけ）のものとしてとどまる限り、日本学の深化は見込めない。内外、東西などの多角的な視点とその交差が必要であり、そのためには世界で展開される地域研究との研究交流が必要である。また本学がめざし求めてきた「国際日本学」とは、海外において展開される日本学研究との比較と交流により、日本学研究の深化をめざす学問分野である。それは海外の日本学研究が必然的にその地域との比較的な視点を含んでいるからである。つまり海外の日本学研究は、とかく日本における日本学研究が欠如しがちな客観的、多角的視点を補い、日本における日本学研究に深化をもたらしてくれるものである。それゆえ、本センターの概要には、「本センターは、日本学研究の国際的な交流とネットワークの形成を目的として平成16年4月に発足しました。世界各地で行なわれている日本学研究を結びつけて、交流を促進しつつ国際共同研究を推進します。国際日本学シンポジウムを開催するとともに、共同研究プロジェクトを作り国際的・学際的情報ネットワークの構築を進めます。」（『比較日本学研究センター研究年報』創刊号、151p）と明記されている。

このように本学がめざしてきた国際日本学、言い換えれば日本学の国際化は着実に前進している。日本学研究において、単に日本が世界に向けて発信を行うことだけでは「日本学の国際化」を意味しない。広く海外で行われている日本学研究との交流が必要であり、互いに学びあうことが必要である。その意味で本年度展開された様々な学びの場を通し、本学、そして世界の日本学研究がさらなる次元へと発展できたことを確信し、そのことを海外の日本学研究者とともに喜びたいと思います。

2010年3月